秋高同窓会だより

題字は塩田会長

発行者
秋田県立
秋田高等学校同窓会

印刷所
秋田オフセット
印刷株式会社

塩田雄次会長を再任

130人出席し平成2年度総会

平成二年度の通常総会は八月十八日（土）、秋田ニューグランドホテルに百三十名の出席をえて開催され、元年度事業報告決算の承認、知道会（水中・水戸一高同窓会）との姉妹提携の報告・交流と組織化、平成五年と三年後に迫った創立百二十周年事業実行委員会報告、平成二年度事業計画案、予算案等が全会一致で承認され、最後に役員改選の提案があり、塩田雄次現会長のほか全副会長が再任された。

百三十人の会員が出席、役員改選などを行なった
平成二年度秋田高校同窓会総会

小澤氏（東映テレビ企画営業第一部長）が講演

今年の当番幹事は十年次で、会場準備・受付・案内と総会体制を万全にして、40年卒佐々木雅樹氏の司会で開催された。

当番幹事としては最後に「0」の付くという、10年卒笹尾弘氏の開会のことばに始まり、校歌斉唱、物故会員に黙禱をささげた後、塩田会長が「同窓会開催にあたり多数の出席に感謝するとともに、母校も年々隆盛をきわめ、中でも今年の進学は稀にみる好成績であった。同窓生の陰ながらのご支援に御礼申し上げる。姉妹提携を結んだ知道会の方々の出席を歓迎致します。母校のさらなる発展には、今後とも熱烈な応援・後援が大事である。まもなく創立百二十周年という記念すべき年を迎えるが、同窓会としても母校の百二十周年にふさわしいものを残したいと検討を重ねている。自分たちの教わり育った学校が益々発展するために、又今この情勢で秋田県の代表校としてふさわしい学校に育ててゆくのも一つの大きな使命である。百二十周年記念事業も含めて、本総会がスムーズに進められることを希望する。」と挨拶された。続いて、室田弘学校長から母校の現況、硬式野球、軟式野球の活躍やインターハイなどの紹介があった。知道会代表山口副会長から「招請を感謝するとともに、姉妹提携を結んだのは、佐竹公を中心としたことから始ったが、六月の調印式を経て、今後教育・文化を軸に諸々の情報等を交換し、お互い切磋琢磨しながら、立派な実をあげてゆきたい。折にふれて、最も必要な事を一緒にやると同時に、五年先輩の秋田高同窓会の茨城県支部結成にはできる限りの手助けするつもりなので、何なりと申し付け願いたい。」という挨拶があった。

塩田会長を議長に議事にうつり、平成元年度収支決算・名簿会計収支報告・監査報告があり原案通り承認した。続いて平成二年度関係を諮った。事業計画の主なものは、入会式、だよりの発行、データーへの入力、年次別同期会の開催促進と連携強化、百二十周年記念事業委員会の推進（計画立案の年度）、学校林の整備等である。収支予算は九百四万千二百八十七円である。これらについても承認された。

知道会との交流と組織化については、特別委員会とし、内容を検討することと、知道会総会に出席することが提案され認められた。

創立百二十周年記念事業については、学校としての百二十周年であり、同窓会として何ができるのかを基本に据えて取り組みたいとの主旨が了承された。

最後に役員改選が行われ、塩田雄次現会長ほか副会長全員の再任と監査委員に小玉康延氏の再任と三浦憐司氏（昭26卒）、米谷節郎氏（昭25卒）新任がなされた。閉会のあいさつは三川敏夫氏が行い、総会を閉じた。

続いて恒例の講演が行われ、今年度は、昭和三十年卒で、早稲田大学から東映に入り、現在東映㈱テレビ企画営業第一部長の小澤啓一郎氏が「テレビ制作のうらおもて」と題して行った。桃太郎侍・水戸黄門・大岡越前など人気番組の誕生のいきさつ、市川右太衛門、片岡千恵蔵ら俳優の性格の裏表をエピソードを交じえて紹介し、テレビ制作現場を見ているような話をされ、出席者一同感心しきりであった。

塩田雄次会長

同窓会決算・予算

	平成元年度決算額	平成２年度予算額
〈収入の部〉		
入会金	3,261,600	3,276,000
年次会費	1,560,000	1,300,000
役員会費	1,935,000	2,000,000
協賛広告収入	550,000	650,000
基本運用収入	373,316	400,000
雑収入	308,849	200,000
繰越金	1,578,264	1,215,287
合計	9,567,029	9,041,287
〈支出の部〉		
事務費	1,069,364	1,290,000
会議費	1,543,862	2,050,000
事業費	3,063,961	3,100,000
基金	2,000,000	2,000,000
雑費	434,018	250,000
予備費	240,537	351,287
合計	8,351,742	9,041,287
繰越額	1,215,287	

平成元年度基金会計

〈収入の部〉		〈支出の部〉	
前年度繰越	12,134,185		0
繰入金	2,000,000		
利息	4,716	基金残高	14,138,901
	14,138,901		

学校側から希望聞く

百二十周年記念事業 実行委員会を開催

いよいよ「百二十周年記念事業実行委員会」が動き出し、活動が開始されました。

去る十月三日に第一会館本館において、この会の第一回目の総務委員会と全体会とが開催されました。

総務委員会は、全体会に先だって会長・副会長以下十二名が参加して行われました。

会は、まず塩田会長のあいさつの後、事務局からの経過報告があり、続いて協議に入りました。

協議題としては、各部門別委員会の事業計画と予算案についてであるが、これについて事務局より前回（百十周年）の事業と予算・決算の資料が参考として提示され、これを元にして各委員会の創意工夫を凝らして計画を立てて欲しいとの説明がされました。

なお、事業計画及び予算案は来年三月末まで作成することとしました。

次いで、学校の意見を聴取ということで室田校長から学校側からの希望として施設設備の整備など四つの希望意見が出たことを話しされました。しかし、施設整備を主とした出来るものから実施していただければ有難いとのことでした。

これについては、学校意見を尊重し、該当委員会で検討することに決定しました。以上の案件を全体会に諮ることとして総務委員会を終了しました。

引続き同会館で五十八名の委員参加で全体会が開催されました。

全体会では、塩田会長あいさつの後、室田校長のあいさつで、記念事業に関する学校側の希望意見を申し述べられました。

そのあとは、総務委員会と同様、事務局からの経過報告と、事業計画・予算案とについての説明があり、全会一致で了承されました。

なお、質問等のなかで、①全国的にイメージの強いものがあってもいいのではないか。②秋高らしい特徴のあるものを。③年史は事業報告的なものにするのか、またはそれを除いたものにするか、皆さんの意見を聞きたい。など出たが、初めての会合であったのでまとまった意見は出ないで全体会を終了した。

秋田市で行なわれた知道会との姉妹提携調印式

知道会と秋田高校同窓会

姉妹提携の調印

去る六月三十日（土）秋田市の「あきたくらぶ」において、知道会（山本満男会長）との間で、姉妹提携の調印がなされた。

「両県民の歴史的なつながりと、両校が県内で最も古い伝統校であることを認識し、将来にわたり友好親善を深め、相互に同窓会の振興と母校の向上発展に寄与するため、協約を締結する。

今後協力して、教育・文化をはじめ、各分野の交流と情報交換等を促進し、一層の向上発展に貢献するよう務めるものとする。」との趣旨で調印締結した。

当日本同窓会側から、塩田会長、小玉準備委員長、杉渕委員長、桜谷委員、山中委員、伊藤事務局長に、知道会側から山口清隆副会長以下三名が出席され、塩田会長が「佐竹公の縁での歴史的なつながりがあり、知道会からの申し出を快く引き受けた。今後は同窓会のみならず、学校側もより一層のつながりを深め、両県の発展に寄与することを祈念している。」と挨拶し、調印式をとどこうりなく終了した。

資料の交換、掘りおこし、進学情報の交換など、幅広く交流を進めてゆくものと思われる。

天上天下

▼岩城町に移転新装なった秋田県消防学校と防災センターを見学した。敷き地も広く教室や体育館、寄宿舎などいずれもすばらしい。ビルの高層化や地下街の発展など都市機能の複雑化に対応した訓練ができるようになっている。訓練には、危険を伴うものが多いだけに、事故防止対策には施設面ばかりでなく、指導に当る教官の慎重な配慮も見られた。▼毎年四月には、各市町村が採用した消防職員が入校する。ここで青年たちは六か月間、寄宿舎に入って教育を受ける。起床から就寝まで規則に従って生活するのだがかなり自由気ままに暮らしてきた青年たちは、最初はとまどいストレスで体調をくずす生徒もいると云う。▼耐えることを学ぶ機会の少ない現代の青年たち。大学入試合格をめざす高校生は、勉強、勉強ときびしい毎日が続いているわけだが、マイペースでの努力と家族や周囲の暖かい思いやりの中での忍耐だと思う。卒業間近かの県消防学校の生徒たちは、六か月間で、きびきびとした動作を身につけ、体力と度胸もでき、他の人の生命と財産を守る使命を自覚していた。▼大学進学をめざす高校生は、大学に入ることが第一の目標であろうが、入って何をするかが大切なことだと思う。希望の大学に入っても自分が何をするために何をしているのかわからないと云う大学生も多い。▼現代では、アルバイトをしている学生のほとんどは、車やオーディオ・ビディオなどの支払い、デートの資金を手に入れるのが目的だ。アルバイトも三Kは嫌いだ。楽な仕事で高資金を望み、自分の都合で約束した仕事をすっぽかす例も多くなった。就職を決める時期には、内定をいくつ貰ったと自慢し合い、自分が何をしたいのかよくわかっていない学生が多いようだ。大人だけの責任だろうか考えてしまうことが多い。

秋田高校同窓会

総会にのぞんで

外岡　仁（知道会姉妹提携副委員長　水戸知道会幹事長）

姉妹提携の芽育て 末永い交流を祈念

平成二年八月十八日、秋田空港に五度目の土を踏みしめたのです。しかし今回の秋田は、今迄の秋田と違います。それは、秋田高校同窓会の皆様が待っていて下さるという実感が、ひしひしと肌に伝ってくるのでした。おもえば二年八ケ月前突然、秋田高校同窓会事務局長（当時）桜谷先生をお訪ねし、秋田高校同窓会と知道会（水中・水戸一高会）との同窓会姉妹提携の話しを、申し上げた。

姉妹提携のいきさつは、当時知道会は、水戸一高の創立百十周年の記念事業を模索していた時期であり、何か同窓会で、意義ある「事」をしたい。しからば何か？母校水戸一高の校門を入ると、佐竹公が水戸にのこされた、唯一の建造物である素晴らしい「薬医門」がある。

この薬医門をつくられた佐竹公が移封された秋田に何かないだろうか？

名君佐竹公は学問にも力を入れられた方、我が母校も百十周年を迎えるのであるから、秋田にも藩校であった高校があるはず、調べた結果、秋田県立秋田高等学校であることがわかり、さっそく、秋田高校にお伺いしたのです。水戸一高門に薬医門があり、建造主である佐竹公の藩校、歴史と伝統ある秋田高校との縁が、この薬医門で出来たのです。

□姉妹提携締結にいたるまでには、色々なお話しもあったことと思いますが、無事平成二年六月三十日に、御地秋田市で姉妹提携調印式が出来たことは、私の人生の一頁に深く刻みこまれ感無量でございます。感激さめぬ、八月十八日、再び御地秋田にお伺い出来たことは、なんと幸せであったことか。それも秋田高校同窓会総会に、お招きいただきました。

□総会々場も調印式を行った「あきたくらぶ」の隣グランドホテルなので胸迫る思いでした。来賓席に案内いただき、塩田同窓会々長様はじめ、顔なじみの皆様にお会いし、色々とありましたが、姉妹提携してよかった!!と感激いたしました。

□会場に出席された同窓会々員の皆様からも、私共知道会代表三名を、心からお迎えいただき感激いたしました。

総会での熱心な、討議を拝聴し充実ある同窓会活動をされることに驚き、更に小玉副会長様からは、今後の知道会との交流を、秋田高校同窓会としての、方向づけなどを会員の皆様に報告されてることを、拝聴し我々知道会として、今後どのように対処していったらよいか、余りにも積極的立案多く、圧倒されたと共に、心から感謝致しました。また、懇親会には、泉水戸知道会々長他十四名の会員まで出席させていただき、秋田高校同窓会の皆様と親しく懇談する時間をもつことが出来感謝致しております。貴同窓会々員の皆様の水戸を想う心、ルーツをたどれば先祖は皆親戚ということで、初めての懇親会とは思われない雰囲気で、秋田の美酒に酔い、知道会々員、だいぶご馳走になり、感激致しております。

今迄は、近くて遠かった秋田も、今は、いつでも気軽に行ける秋田になりました。

この姉妹提携を無駄にすることなく、自然的条件、地理的条件などの違う環境の母校、後輩の皆さんのためにも、私達は、大事にこの芽を育てていきたい所存です。今後秋田高校同窓会の皆様のご後援をいただき、共に手を繋ぎ、切れることなく、末永く続けることが出来ますようお願いいたします。

秋田高校同窓会の益々のご発展をお祈り致します。

報告事項すべて承認

◎理事会

平成二年度の理事会は、七月二十八日（土）、午後五時から栄太楼旅館に、約九十名の出席をみて開催された。

会長の挨拶、学校長の近況報告を含めての挨拶に続き、会務事業報告、常置委員会報告、知道会との姉妹提携報告、百二十周年記念事業実行委員会報告等がなされた。質問として、事業報告が七月末であるのに、会計報告が三月末では不適当ではないかとの指摘があったが、今後検討することとし、報告は全て承認された。続いて議事に移り、決算・名簿会計・監査報告がされ認められた。平成二年度事業計画並びに収支予算について財政委員会からも話があったように年次会員等の納入を遅滞なく行うことも含めて提案され承認された。総会の日程も八月十八日（土）午後二時、ニューグランドホテル、講演者小澤啓一郎氏（三十年卒）に決定した。知道会との交流も特別委員会をつくって取り組むことにした。最後に役員改選が提案され全会一致で塩田会長始め役員の再任を決定した。最後に閉会のことばをのべて、懇親会にてなごやかに交流し、散会した。

年次会費若年の納入向上

◎常任理事会

平成二年度の常任理事会は、七月六日午後五時三十分よりアキタパークホテルに於て開催六十数名の出席により、塩田会長を議長に、各常置委員会より現状及び経過報告があり、つづいて、諸議案について、活発な質疑。意見交換があり、全て、承認された。

主な内容は次のとおりである。

一、年次会費・役員会費については、年次強化案が徐々に効果があらわれ、ことに若年次の納は率が良くなって来ており、今後も尚いっそうの強化を図りたい。（四二～五四年次）

二、名簿領布代金はなどの残金は別途会計としたい。

二、名簿領布代金の残金の内とりあえず二百萬は百二十周年事業への基金とし、残りは住所変更及び新入会員増の定期的入力によるデーターベースの整備等に費したい。

三、広報に名簿委員会の欄をもうける。

四、総会は八月十八日に決定。講師として三十年卒の小沢啓一郎氏（東映㈱テレビ企画営業第一部長）が、満場一致で承認された。

一知道会（水戸一高同窓会）との姉妹提携により、八月十八日の総会に招聘してはいかがとの提案があり、承認。

一小玉副会長より、知道会との姉妹提携の経過報告があり、尚秋田高同窓会にも知道会に匹敵する名称をつくっては如何との提案もありました。

百二十周年記念事業実行委員会の役員

百二十周年記念事業実行委員会の役員は次の通りである。

実行委員長　塩田雄次S5、副委員長　小澤雄象S12、小玉得太郎S18、辻兵吉S19、小林忠雄S28、室田弘S26校長

会計監事　三浦禮司S25、米谷節郎S26、小玉康延S31

総務委員　◎小澤雄象S12、兼務○太田寿男S25、梶原忠郎S19、小玉順一郎S20、湊貞造S20、広島吾朗S23、渡部誠一郎S25、田宮忠S32、桜谷吾朗S12、秋山まり子S29、岸部恵一S30、柴田協子S38、畠山樹之S38、清水昭男S46、山口武秀S49、斉藤広孝S23教頭、松浦三郎事務長、伊藤守一S21事務局長

財政委員　◎小玉順一郎S20、○豊口祐一S34、佐渡谷栄悦S35、速水洋子S39、竹谷繁S43、佐野元彦S49、京極敏S33教諭、間杉喜栄治S34教論

広報委員　◎田宮忠S32、山寺慎子S30、大和宇一S34、和賀政文S41、石井仁S42、河先進S31教論、小林洋S36教論

行事委員　◎梶原忠郎S19、○山谷浩二S20④、神田勉S25、辻悌五郎S27、三船新次S31、山田靖男S32、今田伸S35、石川清治S36、丸野内胡桃S38、竹屋直太郎S42、大久保正樹S42、根布谷豪S46、菊地了邦S48、酢尾太S48、青山順吉S49、小国輝也S57、柴田義弘S41教論、斎藤裕義S44教論

校史委員　◎渡部誠一郎S25、○田口能祐S22、山中良二郎S20④、加藤民夫S31教論、高島清子S33教論

名簿委員　◎広島吾朗S23、○工藤雄一S33、加藤昭男S27、那波年雄S34、五十嵐和子S38、中村優子S42、佐藤英明S46、佐藤洋S46、佐藤悦紹S49、田近吉彦S50、成田良実S54、佐藤正S25教論、伊藤宏毅S32教論

施設委員　◎湊貞造S20、○高橋昌一S21、太田規S18、佐藤武S20、大友康二S25、太田洋生S26、安東義之S26、藤原豪男S27、小川省吾S28、大井康S30、奈良力男S31、湊邦夫S32、三浦捷也S35、大島駿一S37、高橋智徳S40、高井宏司S40、長谷川和子S42、湊潤二郎S23教論、樋口勝郎S38教論

◎印は部門別委員長
○印は同副委員長

総会の式次第決める

◎第二回当番年次打合会

本年度第二回の当番年次打合会は、八月十日鎌田会館において、小玉副会長、太田企画委員長、岸部副委員長、各年次代表者及び事務局とで総会についての打合せを行った。

まず総会、懇親会の次第と司会者を決定。その他の役割分担も決める。また、当日の講演者は小澤啓一郎（昭三〇卒）に決まる。

なお、当日は知道会（水戸一高同窓会）からも会長等三名が出席する予定となったので、この紹介と「あいさつ」をしてもらうことを決めた。

最後に、総会を盛会にするため、各年次はより多くの出席者をはかることを申し合わせて閉会した。

委員会だより

「同窓会だより三十二号」発行以後に開催された常置委員会および特別委員会は次の通り。

▽企画委員会（六月十一日）

小玉副委員長以下八名の委員が出席して千秋会館で開催。事務局から120周年実行委員と姉妹提携準備委の状況報告のあと、懸案の年次・役員会費について話し合った。この件については財政の基盤をなすものであり、現在の納入状況（額・率）では早急に結論を出しかねる問題であるとの見解で一致、今後の状況をみながら、再度検討することにした。

年次強化対策の報告と今後の進め方、120周年実行委員の予算、常任理事会、理事会、総会日程、本年実施予定の学校林視察と役員改選に伴なう「役員候補者推薦名簿」などについても協議した。

▽財政委員会（六月二十日）

小玉委員長以下六名が出席して栄太楼旅館で開催。事務局から平成元年度の会費納入状況と決算についての説明があり了承された。次いで平成二年度の事業計画と予算案を協議、予算案については決算案を考慮し、収支とも若干の修正をすることとした。

次に年次・役員会費のあり方について協議したが、企画委同様、今後の推移をみてから検討することにした。また「120周年実行委」の運営費予算については、現時点では財源がないので名簿会計から200万円を支出、特別会計として取扱うことにした。

名簿会計の今後の取扱いについては、現在の残額を今後の必要経費にあてることとし、一般会計には予算を組まない。ただし、残金を消費し、なお経費を必要とする場合は、再度検討することにした。

▽姉妹提携準備委員会（六月二十一日）

小玉委員長以下九名の委員が出席しアキタパークホテルで調印式（六月三十日）の打ち合わせとして開催。

事務局から調印式当日の知道会側の出席者氏名などが報告された後協議に入った。第一に協定文については、当委員会で作成された原案と知道会が作った原案を交換、相互の意見調整を行って作成された案文を審議し全員一致で承認された。

次に調印式についてであるが、時刻場所（あきたくらぶ）、（午後4時）、出席者（会長以下七名）、式次第（事務局一任）と、懇親会等について話し合いをした。

また、調印式後のこの委員会のあり方について協議したが、企画委に入れるのも適当でないので、今までどおり単独の特別委員会として存続させることとした。

▽広報委員会（八月三十一日）

本年度二回目の編集会議は、田宮委員長以下6名が出席して、鎌田会館において開催された。「だより三十三号」の主要割付と執筆分担、原稿・広告の収集などについて話し合いをした。

▽名簿委員会（九月十四日）

本年度第二回目の名簿委員会は、千秋会館において広島委員長以下十名が出席して開催された。

この日の委員会は、先に数人の委員で協議したことをもとに話し合いが行われた。

まず、原データを各年次等へ提供する方法としては、印字データのみとすること。また、それにともなう経費は、実費徴収をすること。次に「同窓会だより」に名簿委員会の欄を設けてもらい、名簿委員会からの情報伝達を積極的に利用していきたい。

三つ目としては、データの訂正に必要なアルバイト人の確保をはかりたい。

更にはデータ訂正専用のハード等の購入を希望したい。

哀悼

（判明分・敬称略）

榎　順一（S27）秋田市2・4
佐藤　房夫（定21）秋田市2・4
竹内　弘毅（S5）東京都2・5
中田　富重（S11）秋田市2・6
石田　富士（S34）秋田市2・7
沼田栄一朗（S12）秋田市2・7
菊地　隆三（定27）秋田市2・7
柏木　義雄（S5）千葉市2・7
松田　真一（定21）秋田市2・7
篭谷　陸男（S12）秋田市2・8
町田　俊正（S5）東京都2・8
樫尾　報三（S7）東京都2・8
奈良　譲介（S7）習志野市2・8
佐藤　正一（S7）秋田市2・8
奈良　修介（S7）秋田市2・9
金山　和義（S7）秋田市2・10

羽後交通株式会社
取締役社長　小松秀光（S10卒）
横手市前郷二番町四－一〇
電話　〇一八二－三二－四一五一（代）

境田商事株式会社
代表取締役社長　境田稜一（S10卒）
秋田市楢山大元町二－五一
電話　〇一八八－[illegible]四－[illegible]六〇四

帯広市立病院
副院長　板橋　博（S30卒）
〒080
帯広市東6条南23丁目5-2
電話　0155-23-7291

施工・総合建設業
株式会社佐々木組
代表取締役　佐々木憲隆（S30卒）
本社／秋田市南通みその町4-73
電話　0188（32）2396（代）
南支店／大曲市栄町6-26
電話　0187（63）3269（代）

下山胃腸科・内科医院
下山維敏（S30卒）
大曲市福住町[illegible]
電話　[illegible]八七－六[illegible]五[illegible]

高橋歯科医院
院長　高橋昭一（S30卒）
秋田市新屋扇町[illegible]六
TEL（28）四[illegible]九

卒業六十周年を記念

おたがいに 長生き喜ぶ

昭五会

卒業以来六拾周年を記念する昭五会を、九月十九日に開いた。我々は午後一時半に秋田駅に集合。このたびは東京から斎藤、渡部、宮城から鈴木（光）、酒田から三森の四氏を迎え、地元の十九名を含め二十三名が参加した。

一同は六拾周年記念の贈物として、同級生相沢謙一画伯の作品を携えて母校を訪れ、代表安倍興氏より、学校への謝恩のしるしまでに、この壁画を贈る旨の挨拶を述べ、室田校長先生にこれを贈呈した。

相沢氏は秋田師範を経て県内小教員、台湾そして終戦後県内小中校教員、校長を経て定年。現職中より教職の傍ら洋画に精進された、その道の先達として知られる。

絵の贈呈に先立ち校内を案内して頂いた。新装なった母校の威容に接したのは、東根小屋町の古い学び舎を後にして以来、初めての者が殆んどで、正に六拾年の長い間の様替りに眼をみはった。

三時に母校を辞去、場所を恒例の千秋会館（旧檜山グランド跡の一角）に移し懇親会に入った。開宴に先立ち幹事本間氏より、記念品に何を選ぶかについて諸氏に図った中で、鈴木（光）氏から相沢氏の作品がどうかとの提案あり、相沢氏の承諾を得た。そこで会員諸氏よりの據金を呼びかけた経緯が述べられた。

つづいて幹事安倍氏より、相沢氏に薄謝金一封を贈った。この金子は額縁代と材料費のほんの一部に止まる。

これに対し、相沢氏より謝辞と校歌の一節「ああ友桜の朝日に匂う」にちなんだ久保田城跡の桜をとり上げた旨、絵の説明がなされた。

つづいて物故者竹内弘毅、柏木義雄、佐々木貞、町田俊正の四氏の霊に黙禱を捧げた。なお本間幹事から塩田雄次氏（同窓会長）が秋田市商工会議所会頭として東京出張とて不参加の旨報告をされた。

それより宴に入り、東京会幹事斉藤氏から会員に十九名の消息が伝えられた。その後各面々により次々に近況やら所感が述べられた。飲む程に語る程に往年の頑童の頃に立ち帰り、果ては昔のアンチャ、いまのじっちゃ、思えば、いづれも喜寿を超えたものと、おたがいの長生きを喜び合った。

やがて鈴木光義氏の音頭で、昔懐かしい校歌「天上遙かに」を斉唱し、午後六時またの再会を期して散会した。

出席者次の通り

安倍興、伊藤彰、伊藤武雄、牛込善正、加藤久三郎、金沢英治、佐藤岩雄、嵯峨勝太郎、斉藤善次郎、桜田正吉、笹山秀武、柴田與太郎、鈴木政夫、堀井太郎、本間善次郎、松葉重敏、三森福治、宮崎政一、和賀茂、相沢謙一、鈴木光義、渡部豊治、藤本儀一

（藤本記）

母校に壁画を贈る

昭五会

去る九月十九日に昭和五年三月卒業会員二十三名が母校を訪れ、卒業六十周年を記念して、学校へ壁画の寄贈をいたしました。

この壁画は、同期の会員でもあります相沢謙一先生の作品で、千秋公園内にある桜の木を写生された六十号の大作であります。

贈呈式は、会議室において安倍興代表が寄贈の趣旨を述べられ、学校長に記念品を贈呈いたしました。

このあと、学校長より御礼の言葉があり、続いて相沢先生が絵についての説明をされ、一同で記念写真を撮って贈呈式を終了いたしました。

当日は、何十年ぶりに母校の校舎をみた方もおり、昔と今の変り様に、喜びと驚きとともに、生徒時代を懐しみつつ、懇親会場の千秋会館へと帰って行かれました。

学校では、壁画を校長室に飾り、会員の気持ちに感謝し、末永く大事にしたいと言っております。

（伊藤守一記）

つどい

101人参加 卒業40周年を祝う

S25卒業40周年記念同期会は、秋雨前線通過後の曇り日の中、九月十五日（土）午後六時より、アキタ・ニューグランドホテル「銀河」において、恩師・加藤、菅原、中山、吉井、町田の五先生、30周年記念以来十年ぶりの学校長・室田先生、新任の同窓会事務局長・伊藤先生をお迎えして、県内会員67名、四十年ぶりの栗原勝雄・高橋金次両氏をはじめ県外会員15名、同伴者6名、賛助会員6名、目下療養中の会員を含めて合計101名参集して開催され、盛況裡に無事に終了しました。特に恩師代表あいさつの町田與太郎先生は、とても八十一歳とは思えぬお元気さ、昔の授業を髣髴させる、長講三十分余にわたる軽妙洒脱なお話に満場爆笑の渦、また吉井忠亮先生の余興「旅の夜風」にも拍手の大喝采でした。

また当日は、栄ある受章者、池内広一（県芸術選奨）、宇佐美悦朗（藍綬褒章）、佐藤信和（厚生大臣表彰）の三氏に同期会一同より記念品を贈呈致しました。

昔の面影が浮かぶ

名称「秋田二〇四の会」に

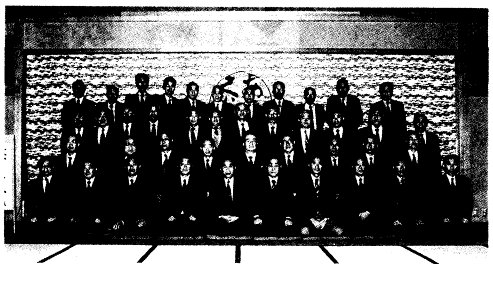
秋中二〇四の会は、一〇月九日に秋田市の秋田くらぶで開いた。

我々は、昭和二〇年三月秋田中学を四年で全員卒業した。このようなことは、明治以来旧五年制・中等学校ではなかった。昭和二〇年と言えば、第二次世界大戦（大東亜戦争と我々は教えられた）末期、我々同期生は、群馬県で、勤労動員令により飛行機工場で工員として働くか、軍関係の学校に入っているかで、手形校舎で勉強して居る者はなかった。次来、今年で四十五年になるが、同窓会名簿では、昭・二〇・（四年）となり、同時に、卒業した一年先輩とは、区別され、年次当番では、二十一年卒業と一緒になったり、同期会を開く場合も、会のフル・ネームが長くて、落ち着きがなかった。

ところが、今回、会の名称を〝秋中二〇四の会〟でやって見ようと言うことになり、今後この名称を使用したいと考えている。「…の会」であるから、いずれ、会則を作らなければならないとも考えている。

〝光陰矢の如し〟とは至言である。それぞれの思いで流れた歳月を振り返える今日此頃であるが、集って盃を重ねるにつれて、昔の面影が、だんだん浮んでくる。平均年令が八十才の現在、集った諸君から、中学当時のエネルギーを感じる次第である。当番年次として、平成三年度同窓会総会に講演者として、〇君を呼んだらとか、来年の県議選では、K君を激励しなければ等々、同期生ならではの賑かな集りであった。

「山谷記」



入学時の新聞 見て話し合う

秋中20卒 関東地区同窓会

秋中昭和二〇年四卒関東地区同期会は、六月二日JR京浜東北線鶴見駅前「鳥二」で開かれた。

案内文に〝会場は戦後の新宿駅裏あたりの飲み屋に毛が生えた程度の粗末な所ですが、勤労動員から戦後を生き抜いたわれわれの世代には相応しい思います。〟とあり、秋田から初めて参加する自分にとって、〝皆さんが、どんな顔をしているのか、四十五年前の面影がのこっているかしら、〟と期待と不安で胸が、一杯であった。会場で、世話役の佐川・柏崎・両君の相変らず元気なお顔を拝見し、ほっとした次第である。色々話が弾ずむが、最初に出るのは、野球部の選抜での大敗・そして、平成二年度はどうか、と云う質問である。宴・酣になり、一人一人自己紹介と近況報告があった。

（旧姓大和田）島津君が、父君の遺品より発見したと云う、昭和十六年三月二十五日・三〇日の秋田魁新報の切抜が圧巻であった。「見出し」「秋中でも考査始まる。」秋田中学校の入学考査は、二十五日から二十八日まで四日間に亘って、人物考査・発育概評・身体検査・運動能力検査の各項を毎日、一つづつ順繰りに行うことになっているが、第一日目の口答試問では、鉄の種類・汽船は何で出来ているか。……時局への関心を測定した。中略…控室では付添がさすが落ちつかぬものがあるらしく、このところ受験児童よりも父兄の方が気が気でない。かくて、三十日中に合格者の発表が行われるがその結果二百三十名が振落される訳である。「秋田中学入学合格者・荒川篤……渡辺佳則以上二百六十五名」還暦を過ぎた一同ではあるが、切抜で、自分の名前を確認し合い、会は大いに盛上った。そして、校歌応援歌の高唱・そして散会、それぞれ都内へと繰り出した。楽しい夕であった。今年は卒業四十五年になるので、秋・〝集い〟を計画中である。（山谷記）

夫婦同伴で 六郷で開く

秋中五十期会

秋中五十期会（S12卒）前期例会は、この度初めての試みとして、夫婦同伴で市外に会場を移して開催することにし、一昨年我々の仲間から町長に当選した京野大三君の激励をかねて、「清水と森の町」六郷町で、七月八日盛大に開催した。

初めての遠出で、参加者は例会より少く二十四名であったが、幸い奥様三名の参加をえて計二十七名となった。

九時三十分、アキタ・ニューグランドホテルに集合、大型バスにゆったりと座り十時出発、幹事心配りの缶ビールに喉を潤し、大曲バイパスを経て十一時半頃、六郷町役場に到着する。ここで京野氏の出迎えをうけて、町内見学に出かける。まず町の歴史資料などを展示する学友館で説明を聞き、次に新装なる自転車競技場を見学する。

六郷町は、ルココッツィ、アイヌ語。で清い水たまりのある場所という意味から、町の名が付いたと言われる程、清水の多い町、そのうちの代表的な清水（ニテコ、藤、お台所、諏訪の各清水）を見学、最後は、臨済宗大桂寺の清水でひと休み、おい茂る緑の美しい自然に心の洗われる思いに浸る。

一時過ぎ懇親会場の若松屋に到着、京野氏の乾杯で開宴する。この頃には、相当できあがった人も居り、宴は最初から盛り上がる。例によってカラオケを楽しむ人、雑談に気炎をあげる人奥さん達も思いのほか我々のムードに溶け込んで楽しそう。

四時にはお互いに、いい気分で車中の人となり、一路帰路に、六時には予定通りホテル着、まだ飲み足りない人は、ビヤホールへ、来年前期の例会は、阿部新氏のお世話で、鹿角市花輪で開催することにして解散した。

参加者は次の各氏であった。

秋中五十期会出席者

阿部　新	相沢　弘
池田　康夫	伊藤　繁雄
伊藤　博次	伊藤　恵美子
小沢　雄象	小縄　太郎
京野　大三	京野　佐多子
草薙　義照	幸野　敏夫
小玉　健吉	小西　理兵衛
佐藤　忠	佐藤　千里
佐藤　友三郎	桜谷　吾朗
坂本　元	田中　義郎
千田　忠次郎	根本　常夫
福田　兼一郎	三浦　善一郎
山崎　忠秀	和賀　義雄
渡辺　喜一	（以上27名）

船木清治税理士事務所
株式会社　船木会計センター
（旧社名 株式会社中央経営計算センター）
専務取締役事務長
船木紀生
（S50卒）
〒010-16
秋田市新屋松美ヶ丘北町3番24号
TEL0188(63)7744 FAX0188(63)9828

雪印乳業特約店
株式会社三愛社
代表取締役
佐々木覚
（S50卒）
秋田市山王沼田町5－12
電話（0188）23-3789番
FAX（0188）23-3766番

一般歯科・矯正・小児歯科
歯科アキタクリニック
武蔵貞司
（S30卒）
秋田市山王一丁目9－6
電話 0188－64－1355

精神科・神経科
象潟病院
院長
成田茂
（S30卒）
由利郡象潟町小滝字栗山11
電話 一八四－四四－二三四一（代）

公立角館総合病院
院長
戸沢一馬
（S30卒）
〒014-03
仙北郡角館町岩瀬字上野18
電話 0187－54－2111

寺田薬店
寺田昭士
（S30卒）
〒014
大曲市大花町22－4
電話 0187－62－0682

母校から7種目に出場

八月一日か宮城県で開催された全国高校総合体育大会に母校からテニス・柔道・ボード・剣道・卓球・バドミントンの六種目に出場・さらに、八月二十五日から明石公園高砂球場で開催された全国高校軟式野球大会へ二年ぶりに出場、力と技を競った。

全国高校総体　全国高校軟式野球

全国高校軟式野球　ベスト8に進出

八月二十五日から兵庫県の明石公園・高砂両球場を会場に開催された第35回全国高等学校軟式野球選手権大会に、本校軟式野球部は二年ぶり4回目の出場を果たした。

二年前の大会では、優勝した広陵高校（広島）に初戦で0対1の惜敗を喫しているので、今年は初戦突破を目標にして大会に臨んだ。

二十六日の初戦の相手は、前日0対6の劣勢から逆転勝ちを収めて意気揚がる横浜商業（南関東代表）。相手に調子づかせるのを警戒していたが、立ち上がりいきなり2点を奪われ追う立場になる。だが中盤、当っている三番今重太が二本目の本塁打左翼席に快打してチームを盛り上げ、2対4で九回裏の攻撃を迎えた。先頭打者、ラッキーボーイの今が内野安打と敵失で二塁に進み、すかさず四番長崎和之がレフトオーバーの三塁打を放って一点差。五番三浦裕介の四球と盗塁で無死二、三塁とチャンスが拡がる。ここで六番主将鎌田武遠がセンターへ大きな犠牲フライ。長崎還って同点。さらに外野からの返球が三塁ベンチ前へころがる間に、二塁走者三浦もホームを陥れ、一気に逆転勝ち。初めて経験する校旗掲揚・校歌斉唱は最高の気分であった。

〈二回戦〉

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
横浜商	2	0	0	1	0	1	0	0	0	4
秋田	1	0	0	0	0	1	0	0	3X	5

翌二十七日の準々決勝は、優勝経験のある大津高校（西中国代表）との対戦。それ程の難敵とは思えぬが、こちらがピリッとせずまたしても初回に先取点を与えてしまう。三回に1点返したものの、相手の巧守に遭い一挙に勝ち越せなかったのが痛かった。前の試合で大活躍した主軸打者が、相手投手の巧みな配球で押さえ込まれ反撃の糸口がつかめない。後半も、疲れの見え始めた相手投手を攻め切れず、救援投手にかわされ敗戦。いつもの伸び伸びした野球ができず、不完全燃焼の悔いが残る試合であった。

〈準々決勝〉

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
大津	1	0	1	0	0	0	0	1	0	3
秋田	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1

今年のチームは集中力があり、チームワークが抜群で、秋高らしい楽しい野球ができた。二十七日の選考会で、33年ぶり四回目の国民体育大会への出場が決まった。当分新人チームと二本立ての練習になるが、今後は全国の頂点に立つことを目標にしてチーム作りをしていきたいと思う。（軟式野球部長　斎藤常雄）

◆テニス

久々にまとまったチームと評価は高かったが、南国の壁は厚く、団体・個人ともに初戦突破ならず、これまでの意気込みから見るに残念であった。

団体
一回戦
秋田　1−2　近大和歌山

ダブルス
一回戦
佐藤・那波組　6−7　鳥取

シングルス
一回戦
佐藤　3−6　宮崎
秋元　0−6　兵庫

◆柔道

団体戦は予選リーグで強豪と大戦、決勝リーグ進出とはならなかったが、国士館の対戦で次鋒小松が一本勝ちするなど要所要所にポイントをあげ健闘した。一、二年生が大勢のチーム、今後に楽しみを残した。

予選リーグ
秋田　1−3　国士館
秋田　0−3　四日市中央

◆ボート

今大会で競技種目から姿を消すことになったナックルフォアに出場、東北大会優勝の実績からも上位入賞を期待されたが、古豪揃いでハイレベルとなった大会。精神的プレッシャーから普段の漕ぎが出きず準々決勝で敗退した。シエルフォア化する中で捲土重来を期待したい。

◆剣道

今年は故障者続出のため個人二人の出場であった。全県優勝の大井剛太はケガの完治を見ないままの出場と一回戦で敗退、淡路貴之は二回戦進出、善戦むなしく東京代表に僅差で敗れた。

ただ戦績では残念であったが同窓会石巻支部の川口部長始めとする多数の同窓から盛大な激励を受けたことは、何よりも発奮材料であった。

◆卓球

シングルスの戸堀敏孝（二年）は、全県総体二連勝の実績で大いに注目されての出場、三回戦進出、善戦健闘ともいえるが全国の強豪を相手に上位を目指すには、まだまだ努力が必要といえよう。ダブルスは、コンビネーションプレーで今一つリズムに乗り切れず、諸戦突破ならなかった。

・シングルス
三回戦
戸堀　0−2　埼玉工大深谷

・ダブルス
一回戦
高橋・戸堀組　0−2　明徳

◆バドミントン

二年連続出場を果した佐藤慶三に、期待が寄せられたが、残念ながら一回戦で敗退した。

◆全国高校硬式野球

今年は、甲子園経験者も多数いる中、小塚・阿部・木谷らを軸としてのチーム、再甲子園との呼び名も高かったが、準々決勝で秋田西高の好投手に打線を封じられ敗退した。

二回戦
秋田　10−0　秋田高専（6回コールド）

三回戦
秋田　5−1　合川

準々決勝
秋田　2−5　秋田西

国体出場

・軟式野球（初出場）
・剣道　淡路貴之・佐藤静憲
　鎌田昌晃
・陸上　兜森忠道
・柔道　小松紀之

放送部

一ノ関（アナウンスの部）準決勝に
NHK杯全国大会　2部門は予選落ち

NHK杯全国高校放送コンテストは、7月27日から3日間、東京を会場に開催された。

わが校は、アナウンス部門2名、ラジオ番組部門2作品（「表と裏」「おこめたべよう」）と研究発表部門一作品（「生徒が求める校内放送」）で参加したが、残念ながら番組部門と研究発表部門は予選落ちして、準決勝に進出できなかった。アナウンス部門では、一ノ関郁子が三宅坂ホールで、竹内静子が神田パンセで奮闘した。その結果、一ノ関郁子が全国七五名の中に選ばれ、準決勝に進出することができた。準決勝は東条会館で行われたが、惜しくもベストテンの中に入れなかった。

各部門のレベルは高くなっており、各会場では顧問の先生達が熱心に指導していた。わが校では生徒の自主的練習が原則で時々、国語の先生達の御指導を受ける程度である。この状況でよくやっているともいえるが、一人よがりにならないためには積極的な指導も必要となろう。

将棋同好会

2回戦で洛星に惜敗

全国高校将棋選手権大会は8月9日から3日間、将棋の駒の産地で有名な山形県天童市の天童ホテルを会場に開催された。

わが校は六年ぶり四回目の出場で、大将渡辺智彦（3年）副将長谷川真（2年）先ぽう市川治彦（2年）の布陣で臨んだ。

一回戦は静岡県代表韮山高校と対戦し、長谷川が敗れたものの渡辺・市川ともに優勢な将棋をそのまま押しきって二回戦に進出した。次の相手は京都府代表の洛星高校で、大将・副将・先ぽう三人とも四段という布陣で優勝候補にも挙げられる強敵だった。対局は渡辺が悪い将棋を終盤粘って逆転勝ちをおさめ、長谷川が敗れて勝敗の行方は市川にかかった。市川は終始優勢な将棋を最後の最後に逆転され惜しくも涙をのんだ。

今大会は二回戦で敗れたが、二年生が全国大会のレベルを肌で感じる事が出来たことは収穫であった。来年はベスト4を目標に一層頑張りたいと思っている。

鈴木健次郎元校長　伝記の本を刊行

昭和三十八年四月から四十二年三月までの四年間、母校秋田高校の校長として勤務された、故鈴木健次郎先生の生涯を纏められた伝記が、㈶秋田県青年会館の手により刊行されました。

先生は皆さんもよくご存じのとおり、大正十三年に本校を卒業された方であり、「秋田が生んだクラーク」と言われた人であります。

その一生は青少年教育と社会教育とに捧げられたものであり、本校在職中も、職員生徒一同にあたえた感銘にもはかり知れないものがあります。

このたび、先生の二十回忌に当る年に際して、県青年会館のご尽力により「鈴木健次郎の生涯」という伝記本が刊行されました。B6版、三百十二頁、定価二,二六六円ですので、購入ご希望の方は、青年会館へお問い合わせください。

（伊藤記）

「羽城」巻㊂返本を
“校史資料部からのお願い”

学校の校史資料室に保管されている「羽城」の合冊本、巻㊂大正編が見当りません。もし、同窓会員で借りて行かれた方がおりましたならば、至急お返し願います。

事務局だより

知道会（水戸一高同窓会）との姉妹提携調印も無事に終りました。会員のご協力を感謝いたします。

同窓会財政の基盤ともなっております「年次会費」、「役員会費」については、先の「だより」送付と共に納付書を入れてお願いいたし、相当数の年次・役員の方が納付されておりますが、未だ納付されていない年次・役員の方には再度納付書を送付いたしました。早目に納入される様お願いします。

本年度は、同窓会役員の改選の年にあたり、年次ごとの理事については、五百人以上の人数にもなりますので、各年次より候補者の推せんをいただき、それを検討のうえ、総会に諮り承認するという形式で行っています。しかし、再依頼しても推せん名簿の出て来ない年次も若干ありました。それらの年次については前回と変更ないものとして処理させていただきましたので、ご了承願います。

最後に、今回の「だより」発行が、事務局の都合により大幅に遅れたことを深くお詫びいたします。次回からは広報委員会の予定どおり発行するよう努力いたします。

▽だより三十二号で報告後の会務は次の通りであります。

〇6・11　企画委員会〇6・20　同窓会だより32号発行〇6・20　財政委員会〇6・21　姉妹提携準備委員会〇6・25　鹿角支部総会〇6・30　知道会姉妹提携調印式〇7・6　常任理事会〇7・14　42年次同期会〇7・18　会計監査〇7・26　120周年実行委員会委員〇7・選考会〇7・28　理事会〇8・10　第2回当番年次打合会〇8・11　35年次卒業30周年記念同期会〇8・18　通常総会〇8・19　若菜会総会〇8・31　広報委員会〇9・14　名簿委員会〇9・15　25年次同期会〇10・3　120周年実行委総務委員会・全体会〇10・6　営林局支部総会〇10・6　一八会総会

㈲グランドスクリーン印刷社
代表取締役
中野忠樹（S40卒）
工場　秋田市寺内三千刈454−3
電話　0188−64−4999
FAX　0188−64−3863

杉山隆税理士事務所
●日本病医院経営研究所東北支所
●全国医療専門経営会計人会東北支部
所長
杉山　隆（S40卒）
〒010　秋田市山王5丁目7-28（コア12）
☎0188⑹8888・FAX ㉓2488

佐藤歯科クリニック
医師
佐藤金彦（S40卒）
秋田市牛島東3丁目4−8
電話　0188−35−0048

株式会社東日本ハードウェア
代表取締役
草薙俊輔（S40卒）
秋田市卸町4丁目8−11
電話　0188−24−2694

秋田誉　生酛　太平山
小玉順一郎（S20卒）
小玉醸造株式会社
南秋田郡飯田川町飯塚

アルカリ、イオンアイス
ぶっかき氷・ドライアイス・彫刻氷
岡崎製氷株式会社
代表取締役
岡崎和市（S20卒）
秋田市楢山登町4番29号
TEL　0188-32-2208㈹

㈲いわしや三浦
代表取締役
三浦　宏（S40卒）
秋田市大町3丁目4−20
電話　0188−64−3388

高井会計事務所
公認会計士・税理士
高井宏司（S40卒）
秋田市山王7丁目6−12
電話　0188−23−3342

菅原法律事務所
弁護士
菅原佳典（S40卒）
秋田市山王6丁目11−3
電話　0188−23−2232

佐々木雅樹
社会保険労務士事務所
所長
佐々木雅樹（S40卒）
秋田市山王5丁目2−28
電話　0188−24−2694

秋田市中央卸売市場
丸水秋田中央水産㈱
代表取締役社長
高井昭二（S20卒）
秋田市外旭川待合28
TEL 0188(69)5311㈹

飛良泉本舗
山廃純米酒　飛良泉
代表取締役
斉藤昭一郎（S20卒）
由利郡仁賀保町字中町五九
電話 [illegible]